

# 金澤醫學會雜誌第二卷第拾貳號

## 論說 及 實驗

### ◎婦人ノ疾病ニ就テ

會員 山田 謙治 述

余カ今日述ヘント欲スル所ノ者ハ婦人病學ノ事ニアラ  
ス男女ニ均シク發スル疾病ニテモ婦人ニ於テハ特異ノ  
經過ヲ取り爲ニ診斷上豫後上治療上醫師ノ迷ヲ起ス  
アリ故ニ其事件ニ付キ聊カ清聴ヲ煩ハス者ナリ

此事ニ就テモ精ク述フレハ一席ノ演說ニテ盡シ得ヘク  
モアラス婦人ハ躰格ニ於テモ生理機能ニ於テモ男子ト  
ハ全ク異ナル者ニシテ男子ニ曾テ之ナキ妊娠分娩產褥  
ノ外年齡十四五歳ニ達シ春情發動期ヨリ年齡四十二三  
歳——更年期——ニ至ル三十年間ハ始終月經ナル者ア

リ身躰ノ活動運用常ナラス而シテ發起スル諸般ノ疾病  
ハ必ス之カ影響ヲ蒙ラサルハナシ就中妊娠分娩產褥中  
ニ於テハ其影響甚クシト雖此際ニ於テハ多ク婦人科  
産科専門ノ醫師任シテ之ヲ治療スル者ナレハ今之ヲ辯  
セス今日ハ只多數ノ人カ「婦人ナレハトテ男子ト毫モ  
異ナルコトナシ」ト信シ爲メニ往々誤認ヲ來タス所ノ者  
即チ右三時期外ニ於テ婦人ノ疾病ニ及ホス影響——月  
經ノ疾病ニ及ホス有様及ヒ其春情發動期更年期トノ關  
係——ニ就テ述ヘントス但シ此影響ニ就テモ子宮腔卵  
巢乳房等ノ如キ者トノ關係ハ婦人科醫カ任シテ療スル  
者ナレハ前述ノ次第ニテ茲ニ贅セス  
疾病ト月經ノ關係モイト多ケレハ先ツ消化器ノ疾病ヨ  
リ始メ順次他ニ及ハン、偕テ口腔炎ハ月經障害殊ニ經

時ノ遲滯及經水頓止ノ際ニ發病シ又ハ増悪スル者ニシテペルトルレ Bartholle氏ハ每經時ニ咽頭及ヒ扁桃腺赤色腫起シ又軟口蓋ニ往々匍行疹ヲ發スル患者ヲ報告セリ其他濾胞性潰瘍ヲ生スル者所謂 *Stomatitis vesicularis maxima* ハ月經妊娠及ヒ哺乳時ニ發シ屢小兒ニ於テ目撃スル所ノ口内壞疽ハウ、エス、エドガール W. S. Edgar氏ノ説ニ依レハ哺乳婦ニ發シ唾液ハ情慾亢進ニ由リテ其分泌ヲ増シハブラン Habran氏ノ報告ニハ月經毎ニ兩側ノ耳下腺腫起シ妊娠中異常ナク産褥後月經始マルニ至リ再ヒ其腫起ヲ發セリト云フカ如キ總テ口腔ト月經ノ關係大ナルヲ示ス者ナリ又齒齦出血ト月經ノ關係ハ甚タ密ニシテ月經過少若シハ閉止ノ際ニ出血——交換性月經——スルハ鮮カラサル例證ナリ即チポースクエット Bousquet氏カ實驗セシ二十歳ノ子宮缺如患者ニシテ此婦人ハ六月以來毎月齒齦出血シ每時四五日ニシテ停止

シツンラープ Dunlap氏ノ實驗セシ婦人ニ在リテハ出血多量ニシテ遂ニ之カ爲ニ死亡セリト云フ其他齒痛モ月經ト一般ノ關係ヲ有スルコアリホルレンデル L. Hollander氏カ報告セシ婦人ノ如キハ其一例ニシテ二十八日毎ニ必ス齒痛ヲ發セリト云フ其原因ハ齒齦ニ代償性充血ヲ起スニ在リト雖モ又時トシテハ純正ノ神經痛ナルコモ亦之アルカ如シ

生殖器ノ生理的及病的變化ニ由リテ其變常ヲ胃ニ及ホスノ大ナルハ妊婦ニ於テ必ス多少ノ胃變常ヲ起スヲ見ルモ明瞭ナル事實ニシテ月經時ニ於テモ胃痛消化不良等ヲ來タスコト少カラス殊ニ歇斯的里ヲ患フル婦人ニ於テ然ル者ニシテ或ハ經時三四日前ニ發シ經時來テ出血スルヤ同時ニ輕快スルコトアリ或ハ又經時間持續スル者アリト雖モ若シ經水ノ過少或ハ閉止ノ際ニ於テ甚タシク所謂交換性月經ヲ胃ニ發スルハ往々諸家ノ實驗スル

所ナリ而ノ其解剖的變化ハ甚タ少クテムセン *Nissen* 氏ノ說ニ依レハ全ク消極的ノ所見ヲ呈スルコト多シト云フエル、ミッセル *R. Miquel* 氏ノ說ニ依レハ月經異常——月經過少及閉止——ニ圓潰瘍續發シ大出血ヲ起セシコトアリト云フ其說明ニ就テハブリントン *Brinton* 氏ノ如ク圓潰瘍ノ原因ヲ無月經ニ歸スルアリ或ハ反對ニ無月經ノ原因ヲ圓潰瘍ニ歸スル者アレハ婦人ニ於テ圓潰瘍ノ多キ一專ニ至リテハ諸家說ヲ同フスル者ニシテ其春情發動期後ニ多キハ即チ月經トノ關係著明ナル一證ト看做シテ可ナリ

婦人ニハ日々快通スル者稀有ナルモ其原因ヲ生殖器ト腸ノ關係ニ歸セサルヘカラス生殖器ノ疾病ニ由テ起ル便秘ノ外月經時ニモ亦便秘ハ起ル者ニシテクリーゲル *Krieger* 氏ノ說ニ依レハ總テ便秘中二十九%ハ經時中ニアリトシ而シテ無月經ノ際ニハ往々代償性ニ下痢ヲ

來タスコアリト云フ此ニハアラン、ワン、デー、アン *van Dean* 氏ノ如キ反對家アリテ下痢ハ却テ月經時ニ多シト主張スル者アレハ當ラサルカ如シ其他無月經ノ際ニハ肛門ヨリ交換性月經ヲ來タスコアリトテア、ドロステ *A. Prostet* 氏及ア、グロース *A. Grosskopf* 氏ハ其實驗ヲ報告シ又 *Damour* ハ子宮剔出後ニ肛門出血ヲ見タリト云ヘハ痔ナクシテ單ニ出血スルハ稀ナリ痔ハチエ、ミユル *O. Mueller* 氏ノ說ニ依レハ歐洲ニテ稀ナルカ如クナレハ日本ニテハ随分頻發ノ疾病中ニ屬スル者ニシテ坐業ヲ執ル者ニ多シ之レ靜脈血ノ鬱滯ニ因スル者ニシテ立業者ノ下肢ニ靜脈瘤ヲ發スルト一般ナリ而シテ其出血ハ殊ニ經時中ニ多シ寄生物モ亦多少ノ關係ヲ有スル者ニシテル *Rupprecht* 氏及ケーニヒ *Koenigsdoerfer* 氏ノ說ニ依レハ腸内ニ「トリヒン」アルキハ常ニ月經ノ初入チ早クスレ

4  
凡時ニ或ハ却テ之ヲ遲凝セシムルコアリト云フ

臍ノ疾病ニ關シテハフリードリッヒ Friedrich 氏ノ如キ其原因ヲ月經過少、手淫、房事過等ニ歸スル者アレハ未タ詳カナラス然レハ肝臟ノ疾病ニ關シテハ月經トノ關係決シテ少カラス或ハハ、ゼナートル H. Senator 氏及フ

ライシユマン Fleischmann 氏カ實驗セシ如ク每經時ニ黃胆ヲ起ス者アリ或ハエム、ヅカン M. Duncan 氏カ主張スル如ク無月經ノ婦人エ若シクハ毎月經ノ中間或ハ更年期ニ來ル者ニシテ其原因ハ當時ニ起ル所ノ肝臟充血ニ外ナラス又肝結石ニモ多少關係アリシユペル Stenepel 氏ノ如ク婦人ニ結石ノ多キ原因ヲ其業躰ニ歸スル者モアレハポーハルド Bouchard 氏ノ如キハ全ク生殖器トノ關係ニ歸シ結石ノ症候ハ月經初入時ニ發シ每經期ニ發育シ更年期ニ至リテ初メテ生長ヲ止ムト云フ其他肝硬結癭腫ハ妊娠トノ關係ハアレハ經時ニ増悪スルコナキ

カ如シ

呼吸器系疾病ニ於テハ肺出血ヲ最著明ナリトスベツケル Becker 氏ハ毎月經時ニ起ル咯血婦人ヲ見タリト云ヒ而シテ其咯血ハ妊娠中停止シ分娩後再發セリト云フヒ一ナル Diehl 氏カ實驗セシ患婦モ亦咯血シ更年期ニ至リテ漸ク止マレリト云ヒプエツヒ Pusch 氏ハ二十四ノ交換性肺出血患者ヲ報告シプチヒナート Putignat 氏ハ妊娠中經時期ニ及フ毎ニ咯血セシ婦人三人ヲ示シハ、ブライル H. Bari 氏ハ更年期ニ至リ經水止テ咯血ヲ起セシ婦人ヲ報告セリ此等ハ別ニ意トスルニ足ラサルモノナレハ往々肺結核ノ初期ナランカノ疑ヲ生スルコアリ現ニエル、トーマス R. Thomas ノ如キモ一婦人ニ於テ此疑ヲ發セシコアレハ其子宮血腫ヲ療セシカハ肺部ノ異常全ク治セリト云フ肺結核ト生殖器ノ關係如何ニ就テハ未タ充分ノ辨明ヲナス能ハス某人ハ肺結核ハ春機發動期

ニ至リ初メテ發スヘシト論スレハ信否ハ知ルヘカラス  
 然レハ婦人ノ肺癆カ楮子狀ニ増進スルニ至リテハ疑フ  
 ヘクモアラスシテゲ、ダーレンベルグG. Darenberg氏ノ  
 説ク如ク其原因恐ラクハ月經時ニ發スル肺ノ充血ニ因  
 ルナラン夫レ結核ニ於テ月經閉止ニ至ルハ通例末期ニ  
 シテロキボスキーRokiboski氏ノ説ニ依レハ結核ノ度充  
 進シ卵巢萎縮シ結核發起シ若シクハ全身貧血トナルノ  
 後ニ在リテ初メハ過少トナリ大空洞ヲ生スルニ至リ初  
 メテ月經閉止シ多量ノ白帶下ヲ排泄スト云ヘリ  
 心臟疾病ノ患者ニ在リテハ常ニ月經異常ヲ呈スル者ニ  
 シテスカンツキニーSkanzoni氏ハ子宮ニ實質炎ヲ起ス  
 ト云ヒハ、レールベルトH. Lebert氏ハ月經過多トナリ又時  
 トノハ其間歇時ニモ出血スト云ヒツロチーツDuroziez  
 氏ハ二十七人ノ患婦ニ就テ調査セシニ初入遅クシテ  
 十七乃至二十三年ニ在リテ其月經ハ正順ナル者多ク往

々衄血ヲ來セリト云フバセドウ氏病ノ婦人ニ多キハ皆  
 人ノ知ル所ニシテ其發病ハ多ク月經初入時ニ在リ往々  
 無月經ヲ來マスコアリ其原因結果ハ何レニアルカ之ヲ  
 詳カニスルコト能ハサレハ其關係ノ密ナル事實ハ既ニト  
 ルツニーTrousseau氏及エフ、ベニッケE. Penicke氏ノ實驗  
 ニ由リテ明ナリ其他神經性心搏動亢進ハ婦人ニ多キ疾  
 患ニシテ特ニ貧血家及神經性ノ者ニ於テ然リ  
 血管病ニモ多少ノ關係アル者ニシテチエー、ハイチ、  
 Heine氏ノ説ニ由レハ葡萄狀血管腫ノ發生ハ經時中殊  
 ニ月經過少閉止ノ際ニ甚タシト云ヒ又靜脈瘤ノ如キモ  
 經期中ニハ必ス怒張スルカ如シ  
 血液異常ト月經ハ密接ノ關係アル者ニシテ萎黃病アル  
 嬢娘ニ在リテハ月經ノ初入遅クシテ經水ノ量少ク若シ  
 又分娩スレハ乳量成分ニモ變化ヲ來マス之ニ反シテ月  
 經ノ初入早キニ過クルカ或ハ分娩シテ多量ノ失血等ア

## (論説及實驗) 陰唇象皮病ニ就テ

三百八十六

レハ萎黃病ノ發生ヲ助成スト云フ白血病トノ關係ハ未  
 タ明瞭ナラサレハ血友病トノ關係ハ著明ナリ一般血友  
 病ハ婦人ニ少キ——男子十三ニ婦人一ノ比例——病ナ  
 レハ之ヲ患フル婦人ニ在リテハ種々ノ變狀ヲ來タス者  
 ニシテシエーノンライン Schoenlein 氏ハ其初來早シト云ヒ  
 エフ、ア、ケーレル F. A. Kehler 氏ハ初來ニハ遲速ナケレ  
 ハ經時出血ノ量多クシテ交換性出血數々ナリト云ヒベ  
 ルナル Boerner 氏ハ子宮ノミナラス腔壁ヨリ出血シタル  
 者ヲ實驗シカ、ハルデル R. Hartar 氏ハ三人ノ出血死ヲ  
 目撃シワックスムート Waegmann 氏カ見タル者ハ廿  
 歳ニシテ結婚シ處女膜破裂ノ出血強ク漸ク命ヲ全フス  
 ルヲ得タリト云フ出血ノ爲メニ諸般ノ疾病ヲ招クコト少  
 カラサレハ此病ハ概シテ婦人危險多シ其他紫斑病ニ於  
 テモシユロエーデル Schroeder 氏ノ實驗セシ如ク經時ニ  
 大出血ヲ來タシ危險ヲ招クコトアレハ其關係ハ大ナラス

脾臟ニハ經時ノ充血波及スルコトアリエス、リンド  
 S. Lind 氏ノ説ニ依レハ經時ニ左助下部ニ鈍痛緊滿ヲ  
 訴フル者ハ即チ脾臟ノ充血ニ由ルト云ヘリ然レハ其充  
 血ノ度ハ各人及各時期ニ於テ同一ナラス從テ其痛痒ヲ  
 感セサルコト多キカ如シ (未完)

## ◎陰唇象皮病ニ就テ

在廣島 會員 今井 爽三 松

象皮病 Elephantiasis ハ古來希臘ニ於テ癩病ヲ「エレハン  
 チアジス」ト通稱セシモ現今ニ至リ全ク別種ノモノナ  
 ルヲ知ルヨリ癩病ヲ希臘象皮病 E. Graecorum. ト名ケ眞  
 ノ象皮病ヲ亞刺比亞象皮病 E. arabum ト名ク蓋シ亞刺比  
 亞ニ多ク實驗セシニ基クモノナリ

此病ハ寒帶地方ニハ甚タ希有ノ疾患ナレトモ暖地殊ニ  
 熱帶地方ニアリテハ殆ント地方病トナリテ發ス亞弗利